

# 北の 経営者たち①

[DATA BANK]

特集 稚内しんきん札幌支店開設20周年記念 | お取引企業と経営者のご紹介

もはや道産材のシェアは5%。マツ系でも、天然林のものだと耐久性のある立派な木材に生まれ変わるが、間伐材はもろくて使い物にならないとのこと。



## 西尾木材(株)

■本社  
札幌市白石区菊水2条1丁目2番5号  
TEL.011-811-1188  
FAX.011-811-1174

■苫小牧工場  
苫小牧市晴海町35番地  
TEL.0144-55-6038

創業 昭和21年8月1日  
立 昭和22年5月7日  
資本金 9,000万円  
従業員数 33名  
事業内容 一般製材、木材乾燥、山林経営、各種建材、住宅機器販売

主な歴史 昭和31年 下頓別工場全焼、全設備更新  
昭和34年 下頓別工場拡充、第二工場建設  
昭和45年 苫小牧工場新設  
平成8年 下頓別工場廃止  
平成9年 苫小牧工場新設

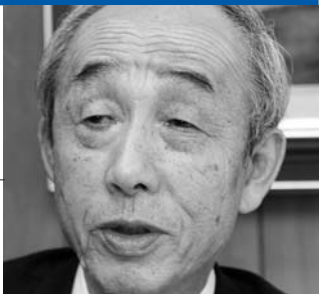


豊川川沿い  
中央区と白石区の境界に建つ本社

## 西尾木材 株式会社

代表取締役社長  
Takeuchi Shouji  
竹内 昭治さん

●昭和16年、中川郡中川村佐久生生まれ。昭和34年、旭川商業高校を卒業と同時に三井建設(株)札幌支店入社。翌年退社し、西尾木材(株)に入社。平成5年、同社代表取締役社長に就任。



北の経営者に聞く

札幌市

# 製材のみならず、住宅の建築資材の95%を扱う会社へと変遷。 昭和22年に下頓別で産声を上げた札幌の老舗「西尾木材(株)」。

### 縁あって父が勤めていた西尾木材に

道北に中川という町(当時は村)があり、そこに佐久という集落があります。私はそこで生まれました。終戦後、小頓別、さらに下頓別に移り住むことになりましたが、父(故人・一司)も西尾木材(株)に勤めておりました。それが縁で、西尾木材に入社いたしました。私が西尾木材に入社したとき父はフローリングを生産する宗谷林産(株)に就任しており、西尾木材にはおりませんでした。

昭和34年春、旭川商業高校を卒業した私は、三井建設(株)札幌支店に入社しました。経理課に配属されました。ところが4ヵ月経った頃、どうにも性に合わないことに気がついたのです。当時は現場に2〜3ヵ月常駐するのが当たり前で、その期間、家族と離ればなれになってしまうのです。それが嫌だったんですね。それで辞めることを決意し、父に相談をいたしました。そのことが西尾木材の社長に伝わり、遊びに来るよう電話をいただきました。会社を訪問すると、社長は「西尾も若い人をほしいと思ってる。その気になったらいつでも来るように」と。

撤退が決まりました。

苫小牧工場では、重要なキーマン数人と一対一で話し合いました。「何か問題はないか、気になることがあれば言ってもらいたい。絶対に口外しないから」と。すると思わぬ意見が出てきました。機械の老朽化が進んでいるとのことでした。一週間のうち、機械が2〜3時間止まるのが何度かあると。私にとっては予想外のことでした。機械担当者の意見は「いずれ寿命がきます」「小さなトラブルは起きますが手当をすれば4年間は使えるでしょう。しかしその先は保障できません」。若かった私は即決しました。苫小牧工場の設備更新ではなく、新工場を建設することを。

問題は、順序でした。私は不採算部門である下頓別工場の閉鎖を優先することにし、その後苫小牧工場を新設することに。私の考えを理解してくれた役員全員がその方向に向かって行動しました。下頓別工場の閉鎖については、平成7年6月に社員に閉鎖をしなければならぬ理由を説明し12月をもって閉鎖することを発表しました。そして「閉鎖までの間、どうかこのまま工場を手伝っていただき

もちろん即決で入社をお願いいたしました。父も大賛成でした。以後、西尾での長い人生が始まることになりました。

### 業界の変化と西尾木材の変化

当社の創立は昭和22年5月。浜頓別町下頓別で産声を上げましたが、直後の11月に本店を札幌に移し、下頓別は工場だけとなりました。

思えば私は会社の変遷を今まで見続けてきました。入社した当初は、国の営林署から丸太を払い下げてもらい、それを製材に加工して販売するだけでした。それで十分に儲けがあったのです。私どもの製材はほとんど道内で捌かれ、7割方はゼネコンの大成建設(株)さんに納めておりました。しかし、時代の経過とともに外材が輸入されるようになるなど、当社の経営環境も大きく変わるようになり、平成7年に下頓別工場を閉鎖いたしました。また、建築仕様、住宅事情も大きく変化し、もはや製材、僅かな建材だけで食べていくことが難しい時代を迎えたのです。それに伴って当社で扱う営業品目も大幅に増えていくことになりました。例えば一般建材が大幅に拡大、外装工事、

たい」と頭

を下げてお願いいたしました。驚くべきことに、全員が最後まで工場に残って仕事をしてくれました。当時、下頓別工場には25名の社員がおりました。閉鎖後については苫小牧工場または札幌本社への転勤を考えましたが、多くの人が「家族がいるので離れられない」「親の面倒を見なければならぬ」などを理由に、地元(浜頓別町内)に残って仕事を見つけないと言ってきたのです。そこで会社も本人たちも、そして私も一生懸命、就職先を探し、結果一人も路頭に迷うことなくその後の新しい人生を歩んでいかれました。

西尾は「人を大切に会社」を目指してきました。思えば私自身が「家族と離ればなれになるのがイヤだから」と三井建設を辞めた姿と、あの時の彼らの気持ちの重なるように思います。



いちばん大切なことは「信頼」  
社員を信頼する、お客さんを信頼する  
信頼こそが企業の未来につながる

### 私◆と◆し◆ん◆き◆ん

創業時は浜頓別支店。その後札幌支店開設と同時に今日までお取引頂いております。先日もお会いしたばかりですが、当時の佐野支店長(前理事長)さんには大変お世話になりました。

西尾の67年という歴史には山あり谷あり、良い時もあれば悪い時もありました。しかし、どんな時でも同じように接し取り引してくれたのが稚内しんきんさんでした。私ももう72歳。五代目の社長ですが、六代目以降も末永くおつきあい頂ければ大変嬉しく思います。